



【東部振興局管内】

しいたけ普及指導情報 第14号

皆さん、東部地区品評会は多数のご参加いただきありがとうございました。全体的にレベルが上がったような気がしました。県の品評会、更には国の段階での上位入賞を期待しています。

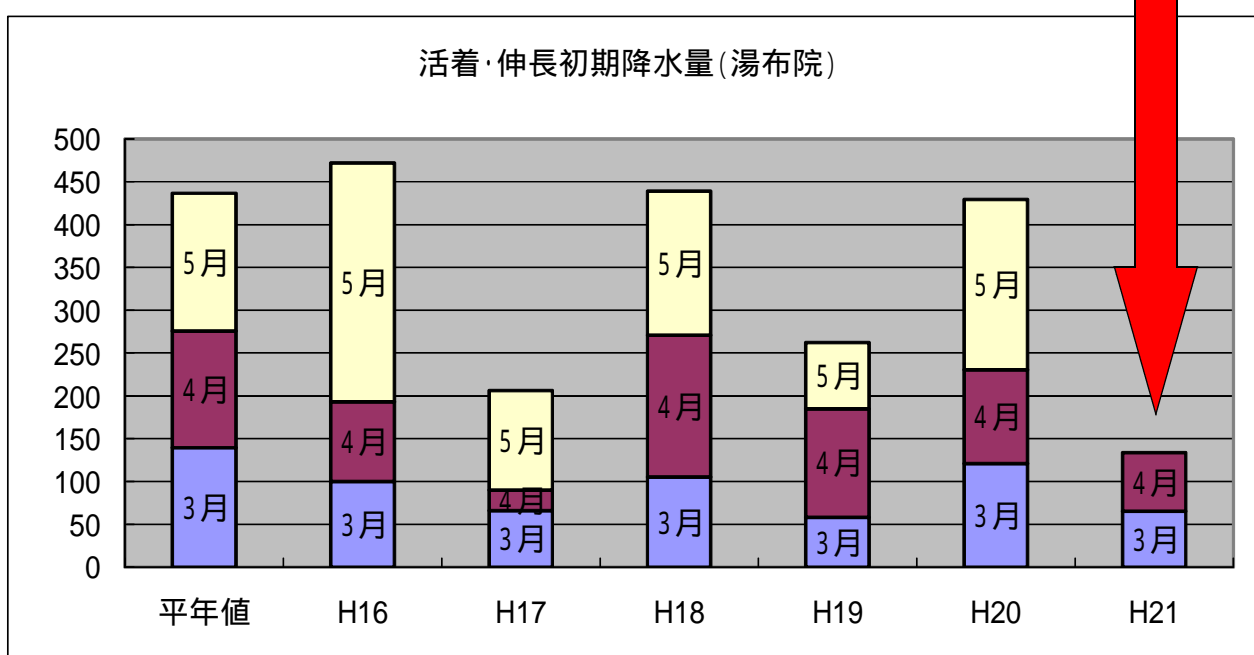
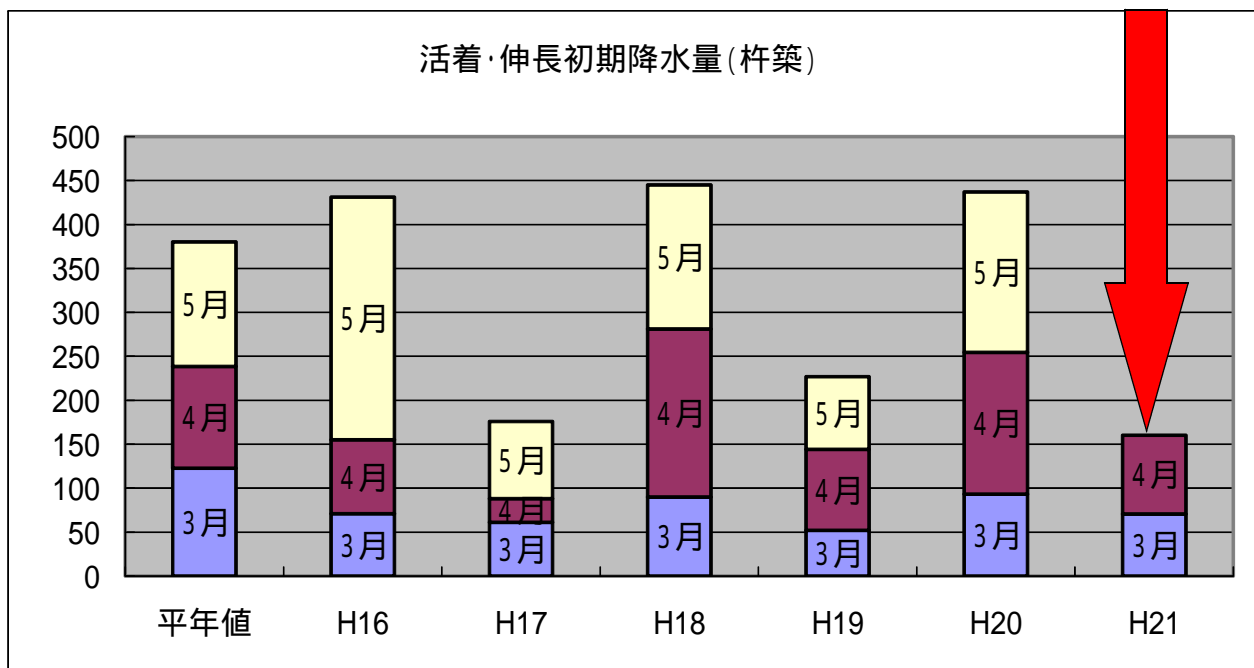
豊作であった昨年に比べ今年は厳しい作柄にあります。今できることを確実にやり単位当たり収穫量の維持・向上を図っていただきたいと思います。

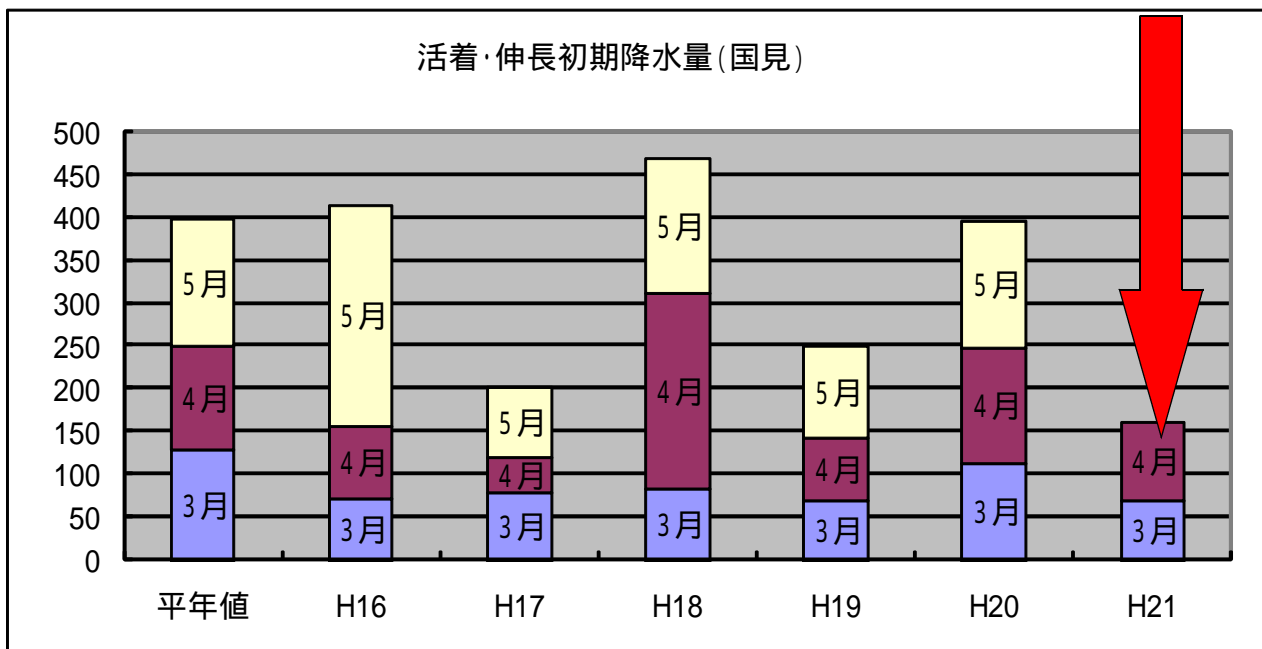
1 単収向上

1) ほだ化時の水分管理

今年の3、4月の月毎降水状況は下図のとおりでした。

ご存じのとおり、2月に杵築では94mm(平年59mm)、湯布院では102mm(平年73mm)国見94mm(平年69mm)の降水がありました。3、4月は少雨傾向にあります。(平年値は1979～2000の平均値)





グラフで見ていただくと一目瞭然ですが、本年は17、19年の少雨年に近い傾向が出ています。5月に入っても現状では降水量が少ない状況にあります。今後の降雨に期待したいところです。特に今年の駒打ちが4月中旬以降に遅れた方は、原木が過乾燥な状態で接種した上に、その後の降雨も少ないため活着伸長の遅れが心配されます、仮伏せ中なら本伏せに移行するのを遅らせる。本伏せを終えている場合でも条件が良ければタンクに水を積み動噴等で散水し水分の補給を行ってください。

散水が可能な場所でほだ木づくりを行う場合
【方法】木片駒の場合、植菌後ほだ木を棒積みにし笠木やダイオネット等で覆い、一晚十分散水する。その後降雨がなければ2日～4日毎に2時間程度の散水を行い、5月には、本伏せに移行する。本伏せ後も降雨がなければ週に1度2時間程度の散水を行う。気温が上昇する夏場の散水は、夕方に行う。
【場所】水はけが良く、日当たり、通風の良い場所。
散水管理ができない場合
 土壌水分を利用して活着を促進させるために仮伏せを行う。これから直射日光も強くなるので、笠木の量も適宜調節する。タンクを利用して散水している例もあります。特に乾燥条件に弱い成型駒の場合は、少量の散水でも効果的な水分補給になります。

2 生産量の拡大(維持)

(1) 原木供給事業について

森林組合等がしいたけ原木を生産者の庭先に届ける、原木供給事業に対し、国東市では、昨年に引き続き市単独の補助も行われる見込みです。皆さんの生産量の維持・拡大の一助となると思われます。希望される方はご相談(OSK国東支部・局)ください。

(2) 新規参入者について

今年も新規参入者向け研修を実施します。ご近所にしいたけ栽培を始めそうな人、初めて間もない方がいらっしゃればご紹介願います。大分しいたけ源兵衛塾については、今年は4期生の2年目にあたりますので募集はしておりません。来年の募集になります。

対象	研修名	内容
全くの初心者	しいたけ新規参入者研修 (栽培基礎研修)	4日 基礎的な講義と実習
本格的な就業を考えている方	しいたけ新規参入者研修 (生産現場通型研修)	12日 実際の生産者の元で研修を受ける(伐採・玉切・駒打・伏込・収穫・乾燥等)
1t程度の生産を目指す方!!	大分しいたけ源兵衛塾 (地域の中核的リーダーを養成)	10日 先進地視察・座学・事例紹介等(2年間)

”52回大分県乾椎茸品評会”が6月6日(土)にOSK流通センターで開催されます”

大分県東部振興局生産流通部
 野菜・椎茸班 担当 栗林(国東市エリア)
 河野(別府市・杵築市・日出町エリア)